

2050年カーボンニュートラル・全国フォーラム Climate Youth Japan プレゼン資料



2020年12月17日

青年環境NGO Climate Youth Japan

代表 近藤 壮真 / 東京大学2年

副代表 石川 柚葉 / 東京外国語大学1年

Climate Youth Japanについて

- 2010年に、気候変動枠組条約締約国会議（COP）に参加した日本のユースにより設立

- 将来に大きな影響を与える気候変動に高い関心をもつ、全国各地の学生を中心に約40名が所属
（2050年に社会の中心にいる世代）

- 世代間衡平で持続可能な社会**を実現するために、若者の気候変動問題の意識向上、省庁・企業への働きかけを行う



Our Vision

ユースが気候変動を解決に導くことで衡平で持続可能な社会を実現する



Our Goal

2°C/1.5°C目標の達成
ユースが社会の意思決定プロセスに関わるようになる



Our Purpose

日本の若者から気候変動問題の解決に向けた取組を推進していく



私たちの活動について

政策提言

- ・パブリックコメント作成
- ・省庁との意見交換会
- ・長期戦略ヒアリング登壇
- ・COP・G20に際して提言書手交

COP派遣

- ・計40名以上の若者をCOPに派遣
- ・世界のユースとの協働・交流
- ・各国サイドイベント登壇
- ・各種報告会開催
- ・国内外への意見・情報発信

若者の啓発

- ・「ecoTAPi」タピオカから環境問題を考えるプロジェクトの実施
- ・COOL CHOICEプロジェクトへの参画
- ・持続可能なオリンピック実現への参画
- ・その他啓発イベント開催



私たちの問題意識

もはや「**気候危機**」が世界の共通認識となっている

気候変動による社会的な影響を大きく受けるのは、
若者をはじめとする**将来世代**である

しかしながら、**世代間衡平で持続可能な社会**の
実現に向けた対話の場が限定的である



私たちが思い描く未来像

- 日本が**将来世代に問題を先送りせず**に、1.5°C目標の達成可能な社会の実現に貢献している
- **COPの日本誘致**などにより、次世代の若者を含む多くの国民が『自分自身のこと』として気候変動問題に関心を持ち、「開かれた対話」の場に参加している
- より多くの人々が、環境問題解決は「我慢すること」ではなく、「**楽しく自然に向き合うこと**」だという意識を持つようになる

具体的な取組についての宣言

- **世界のユースとの繋がり**を活かし、世界中の若者と環境問題について議論できる場の構築を通して、日本から気候変動問題の解決を先導する**人材を育成**する
- 新しいライフスタイルに向けて、若者を含む国民の身近なモデルとなり、**一人ひとりのゼロカーボン生活**の実現を手助けする
- **将来世代が受ける気候変動の被害を軽減**すべく、より明るい未来の実現に向けた、明快な意見発信をする



新しいライフスタイルに向けた取組・アイデア

- Instagramを通して、地球に優しい商品や店舗等を発信する
- 環境負荷の少ない大豆ミートなどを取り入れた食生活へ移行する
- マイボトル携帯などによる環境に優しいライフスタイルを提案する
- 身近な家族や友人に環境問題について話してみる
例) 家庭で、EVや再エネ電力への切替、コンポスト設置を提案する
- 布マスクを再利用する (使い捨てマスクによる海洋プラスチック問題)